

血液検査項目の説明

健康診断や受診時に血液検査をすることがあるかと思いますが、血液検査で何を調べているのか主な項目を説明していきます。

肝機能	総蛋白	栄養状態を示す指標で肝機能・腎機能の低下や栄養状態の悪化により低下します
	アルブミン	栄養状態の悪化により低下します
	総ビリルビン	肝機能障害で高値を示し、肝臓や胆道に障害がおこるとビリルビンの数値が上昇して黄疸が起こります
	直接ビリルビン	
	AST(GOT) ALP(GPT)	肝臓の働きを調べる代表的な検査で高値の場合急性肝炎・肝硬変などが疑われます。
脂質	γ-GTP	アルコールなどによる肝障害指標になります
	総コレステロール	高値では動脈硬化の危険因子となります
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールと言われ、増えすぎると動脈硬化、心臓病などの原因となります
	HDLコレステロール	善玉コレステロールと言われ、低値のときは注意が必要で可
	中性脂肪	おもに体を動かすエネルギー源で、高値のとき動脈硬化の危険因子です
腎機能	尿酸	肉食やアルコールの多量摂取などで上昇し、痛風の原因となるものです
	尿素窒素	腎機能を調べる代表的な項目で、体内の老廃物を排出する状態を反映します
	クレアチニン	
糖尿	血糖	血液中にブドウ糖がどれだけ含まれているかを調べます
	HbA1c	過去1~2ヶ月の血糖コントロール状態がわかり、高値の場合糖尿病が疑われます
	尿糖	尿中に糖が出ているかを調べます

糖尿検査は
糖尿病診断の
決め手にな
ります

年に一度
特定健診などを利用して
健康を維持して
いしましょう!!

